

## 第3章

### CERN（欧州素粒子原子核研究所）アーカイブスと広報室についての報告

横山 広美      総合研究大学院大学 葉山高等研究センター 上級研究員

---

2005年3月8日と9日、スイス・ジュネーブのCERN研究所を訪問した。その報告を以下に簡単に述べる。

なお、3月9日、10日にはイタリア・フラスカッチのINFN研究所を訪問したが、ここではその報告は省略する（小さな図書館のみでアーカイブスはない。広報室はジャーナリスト出身のヘッドを中心に5人で運営されており、充実している模様 <http://www.infn.it/indexit.php>）。

#### 1. CERN アーカイブスについて

CERN 設立後1年目の1955年、Albert Picot が次のように述べている。

“CERN is not just another laboratory. It is an institution that has been entrusted with a noble mission which it must fulfill not just for tomorrow but for the eternal history of human thought.”(3<sup>rd</sup> Session of CERN Council, Geneva, 10 June, 1995)

このように、CERNの設立当初から、アーカイブスへの意識が非常に高かったことが伺われる。CERNの評議会は1979年、CERNの歴史について“History of CERN”にまとめ、“CERN Historical Archives”を立ち上げることを決定した。1988年にはより視野を広げた“CERN Historical and Scientific Archives”が設立された。その理念は「Archiving Policy at CERN」（資料1）にまとめられている。また、細かい規則については1997

年に審査された「Operational Circular N°3」（資料2）にその内容が明示されている。

ここでは上記2点の資料に書かれている内容は繰り返さない。実際に現場を訪れて気づいた点をいくつか述べておく。

### 1.1. CERNのアーキビストについて



フルタイムの勤務は現在1人である。Anita HOLLIER はイギリスでアーキビストとしての訓練を受けた、CERN 常駐のアーキビストである（メールアドレスは、[Anita.Hollier@cern.ch](mailto:Anita.Hollier@cern.ch)）。彼女の他に、週3日のパートタイムがいる。

【写真1】 Anita Hollier と KEK 広報室の森田洋平氏

### 1.2. アーカイブスの利用者について

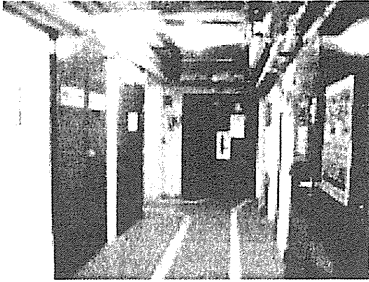
ジャーナリストは少ない。歴史家も年に2、3人程度である。

### 1.3. オーラルヒストリーについて

前任者が約6年前に辞めた後は行っていない。カルロ・ルビアなど、主たる研究者のドキュメントが残されている。

### 1.4. CERN アーカイブスの現場

“本館”と呼ばれる建物の地下にある。長く CERN に滞在している人の中にも、アーカイブスの存在を知らない人が多い。エレベーターで地下に降りると青い扉があり、その奥が書架になっている。



【写真2】

本館の地下、アーカイブ書架の入り口の扉。内部の防火システムは(アーカイブ書架としては)それほどよくないと言う。



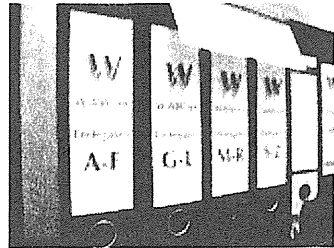
【写真3】

書架の戸棚。かなり長い廊下の左右が書架になっている。アーキビストの事務所は本館の2階にある。



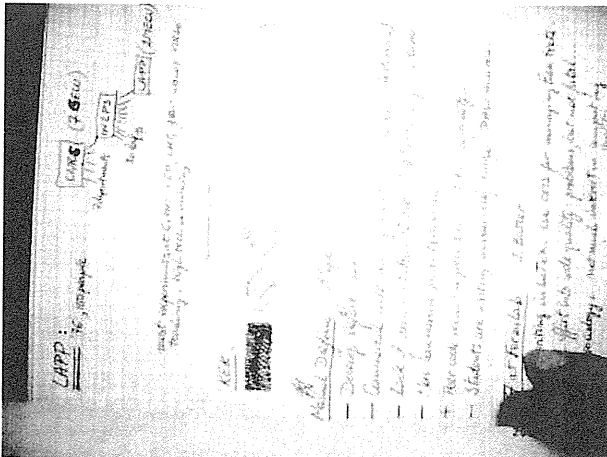
【写真4】

スペースをとらないように、書架はハンドルがついた、可動式である。見たい書架があるとハンドルを回し、スペースをあける。



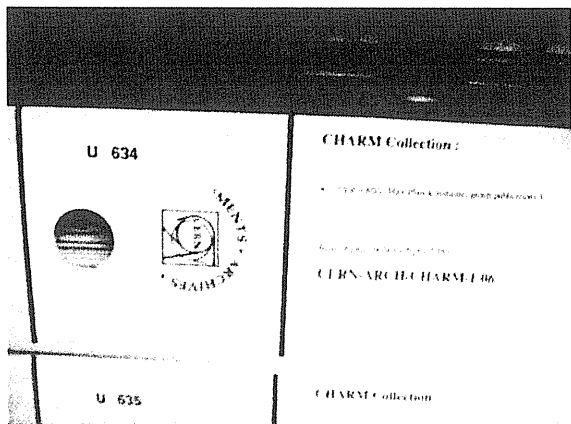
【写真5】

WWWの歴史のアーカイブス



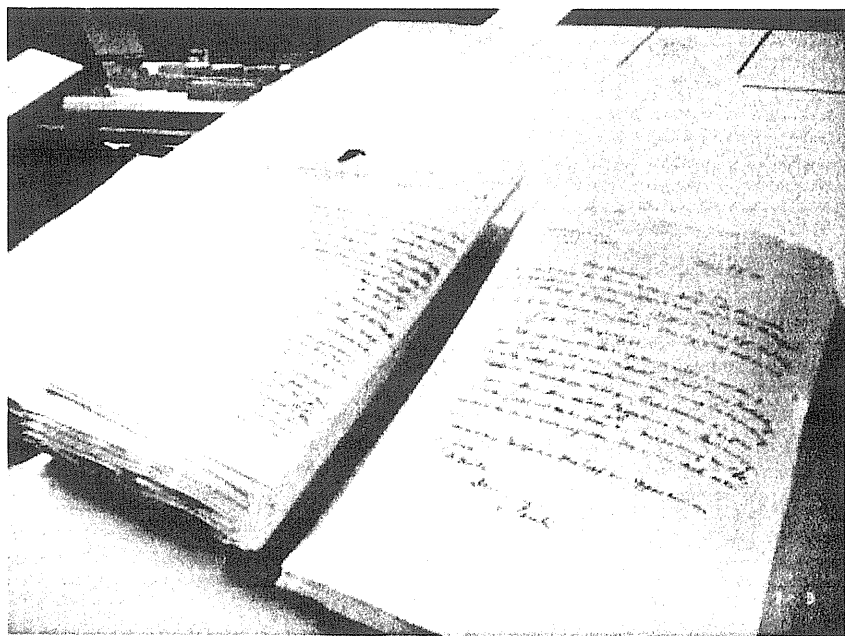
【写真6】

WWWのアーカイブスの一部。KEKの字が読み取れる。



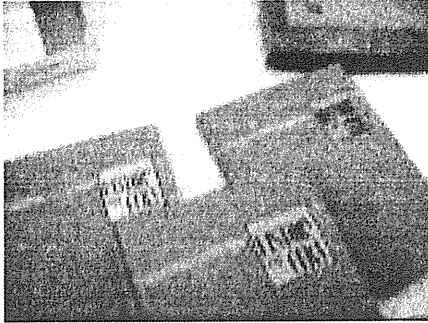
【写真7】

CHARM 物理についてのコレクション。ドキュメントは、このように保存用の箱に入れてあるものが多い。



【写真8】

CERNはヴォルフガング・エルンス・パウリのコレクションが有名。パウリが亡くなった後に、夫人が寄贈した書類を保存しているためである。写真の手紙、右下にパウリのサインが見える。この書類のオリジナルは失われてしまっており、保存されていたのはコピーされたものである。このほかに、ノーベル賞の盾や、アルバート・アインシュタインとの手紙のやりとりなどが保存されている。



【写真9】

冒頭で紹介した CERN の歴史についてまとめた 3 冊の本。”History of CERN”

### 1.5. 電子アーカイブ (<http://library.cern.ch/archives/archnet/>) について

アーカイブデータベースには 46,143 点のドキュメントがサーチできるようになっている。アクセスにはレベルに応じたいくつかのランクがあり(詳細は資料参照)、外部からアクセスできるものから、CERN 内部の人間のみアクセスできるもの、所長の許可があるものまで分類が行われている。

- ・サーチシステムの工夫； キーワードの検索が可能で、検索する場所によっては“写真つき”“写真なし”などの制限をつけることができる。
- ・アクセスの工夫 1； 年度順に調べられるチャートがある。
- ・アクセスの工夫 2； 組織別に調べられるチャートがある など。

### 1.6. どのように情報を集めるか

CERN でアーカイブスの情報収集を円滑に進めるには、CERN 内部の組織である DRO(Divisional Records Officers)が重要な役割を果たしている(資料2)。“物理学者はアーカイブに興味がないから (Hollier の言葉)”基本的にはアーキビストの Hollier が歩き回って情報を集めているが、このとき DRO によって、物理学者の協力がスムーズに求められるシステムになっている。

アーカイブスの対象は、過去のものだけではなく、現在、実験準備が進んでいる LHC 加速器計画のドキュメント収集についても、スポークスパーソンへ直接連絡をとって行っている。

## 1.7. 見学の感想

これだけの情報を管理、収集しているのが、現在 Hollier 1 人であることに驚いた。大量のアーカイブスを管理するのに必要なのは人数ではなく、アーキビストとして教育を受け、また自立して仕事を行うプロの存在であると感じた。

また、アーカイブス収集の際に、物理学者の協力を得やすいよう、研究所内部のシステムがきちんと整えられていることが重要だとわかった。資料を集める際には、アーキビストと DRO や各スポークスパーソン、部署のリーダーとの関係がはっきりとしている（資料 2）ことが、円滑に仕事を進める重要な役割を果たしている。

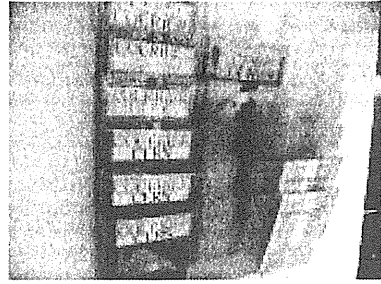
## 2. CERN プレスオフィスについて

高エネルギー物理学界で有名な、CERN が刊行している“CERN Courier”の発行部数は約 14,000 部である。そのうち約 3 分の 1 がフランス語版だが、フランス語版は廃止する予定だ。編集長は Christine Sutton で、他に理論物理学者の Dr. Peter Jenni が、サポートしている。世界的に有名なこの冊子が、これだけ非常に少人数で編集されていることに驚いた。他に広報のヘッドである Games Gillis、広報のスタッフ一名と秘書一名、ウェブマスターが常駐している。数千人が勤める研究所の規模から見て、少ない人数で効率よく動いていると感じた。

なお、20 カ国によって運営される CERN 特有の問題は言語である。そのため、誰が何語に堪能であるという表を用意し、必要なときにはそのスタッフに連絡をとるシステムになっている。



【写真 10】  
本館 2 階のプレスオフィス入り口



【写真 11】  
CERN COURIER は CERN の中のあちこちに置いてある。



【写真 12】  
GENEVA 大学の Ph.D の学生、モニカ。高エネルギー物理学者の社会学を専攻している。プレスオフィスの中に、彼女の部屋が一室与えられ、常駐している。

以上、簡単ではあるが報告とする。詳細な情報は、横山が保管している 2 点の資料とウェブサイトでご確認いただきたい。